

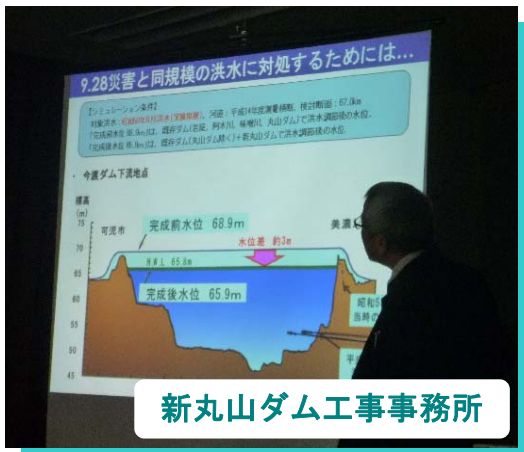
防災意識を高めるために

平成22年度 第1回美濃加茂市防災会議 開催

「平成22年度 第1回美濃加茂市防災会議」が2月16日、美濃加茂中央公民館で開催され、オブザーバーとして、新丸山ダム工事事務所と木曽川上流河川事務所が出席し、防災関係と災害時の国土交通省の対応について、情報提供を行いました。

この会議は、洪水災害に対する住民の危機意識を更に高め、隔年開催している総合防災訓練の成果が災害時に最大限発揮できるよう訓練実施方法を見直す目的で開催されました。

美濃加茂市長あいさつ



新丸山ダム工事事務所

まず、新丸山ダム工事事務所が「木曽川の洪水リスクの対処方策」と題して、昭和58年9月に美濃加茂市に大きな被害をもたらした洪水が、堤防整備の進む現在でも、再び発生する可能性が皆無でないことを説明し、防災意識の向上の必要性を訴えました。

また近年は、気候変動によるゲリラ豪雨での災害発生が増加していることも記憶に新しいかと思えます。「今一度、各戸に配布してある洪水や地震災害のハザードマップを確認し、災害に備えて下さい」と締めくくりました。

引き続き、木曽川上流河川事務所は、「国土交通省の地方公共団体への災害時支援」として、7月15日の豪雨災害時に、自治体からの支援要請により、可見市にポンプ車、八百津町に照明車を派遣した事例や、現地情報連絡員（リエゾン）及び各地方整備局の緊急災害派遣隊（TEC-FORCE）の役割についても説明しました。

また、河川の水位や雨量を確認できる携帯電話のサイトや、250mメッシュで降雨状況を観測できるXバンドレーダーを紹介し、防災業務への活用を呼びかけました。



木曽川上流河川事務所